

リウマチ通信

Vol. 50
2021年5月号

よりどりみどり JAK 阻害薬



関節リウマチの治療薬で、内服薬でありながら生物学的製剤と同じくらい強い JAK 阻害薬の種類が5種類に増えました。2013年にゼルヤンツが登場し、2017年にオルミエント、2019年にスマイラフ、2020年にリンヴォックとジセレカが続けて発売されました。いずれも負けず劣らず効果の高い薬剤ではありますが、価格も高いのが残念なところ。2021年5月現在で、いずれも3割負担でひと月4万円から5万円もします。しかし内服薬で強力な薬剤である点は大きな魅力です。それぞれに少しずつ特徴がありますので、以下の表を参考にしてください。

薬剤名	ゼルヤンツ	オルミエント	スマイラフ	リンヴォック	ジセレカ
用法	1日2回	1日1回			
腎障害での使いやすさ	△	×	○	○	×
帯状疱疹ヘルペスの頻度	多い				少ない
薬物相互作用	多い	少ない	少ない	やや多い	少ない

共通した特徴としては、免疫抑制をきたしますので、肺炎などの感染症にはかかりやすくなりますが、その程度は他の生物学的製剤やメトトレキサート（リウマトレックス®など）と同様です。ただし、ジセレカを除く4剤は帯状疱疹ヘルペスにかかる頻度が高く、可能であれば帯状疱疹ワクチン（シングリックス®）を受けられることをお勧めします（5万円前後と高いですが、それだけの価値があります）。

高齢になると腎臓の機能は落ちてきます。腎臓から排泄される薬は腎障害があると身体に残りやすくなり副作用が出やすくなります。オルミエント、ジセレカ、ゼルヤンツも量を減らせば中等度の腎障害（ $30 < eGFR < 60$ ）なら使えますが、脱水などで腎機能は容易に悪化するので注意が必要です。

また、リウマチの患者さん、特に高齢者は多くの薬を服用されていることが多いと思います。薬物相互作用（他のくすりとのケンカしないかどうか）が少ない方が使いやすいのは確かです。とはいえ、相互作用しやすい薬は水虫の飲み薬だったり、抗生物質の一部だったり、タクロリムス（プロGRAF®など）という抗リウマチ薬だったり、さほど神経質になる必要はありません。

なお、オルミエントは新型コロナウイルス肺炎にも保険適応になったくらいですので、コロナを心配して内服を避ける必要はなさそうです。

（ 文責 医師 大村 浩一郎 ）

短期リハビリ入院を受けて

当院では、普段の生活でやりづらい動きがある、歩きづらい、歩くのが遅くなった、自分にあった運動の仕方を知りたいというリウマチ患者さんを対象に、『短期リハビリ入院』をおこなっています。リウマチ治療に精通した医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、社会福祉士等が連携して家庭で安心して生活が送れるようチームで支援しています。

利用された患者さんからは、「リハビリは、運動すれば良いと思っていたけど、どの部分の筋力を付けないとダメか分かりました。」「ビデオ・本を読んで、さらに自分の病気についてよく分かりました。」等、意欲的な意見が聞かれました。

『短期リハビリ入院』のメリットは、①外来時治療では十分対応できない点を補える②入院してそれぞれ専門分野が対応することで、疾患について理解が深まる③患者さんとの対話等を介して日常生活で不安なこと抽出することができることだと実感しました。また、社会福祉士が担当ケアマネージャーとの連携を取ることで、充実した生活の支援を行っていくことができます。短期リハビリ入院についてもっと知りたいという方はいつでも患者サポートセンターへご相談ください。



(文責 看護師 下坂 るみ子)

